先端医療を支える薬学の未来

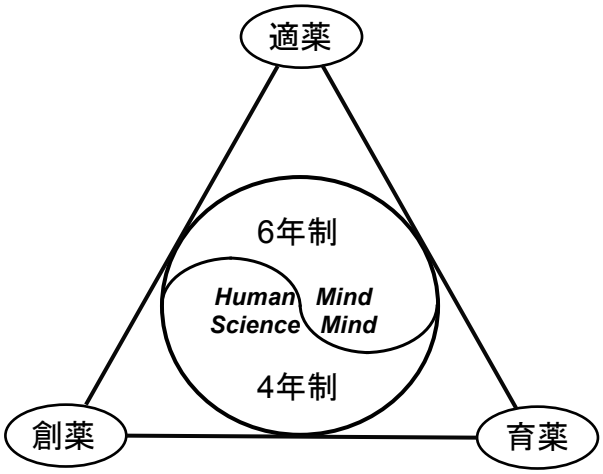
東京理科大学　薬学部長　田沼　靖一

新薬学教育制度が2006年に施行されてからちょうど６年目が終わろうとしています。新生薬学部６年制（薬学科）の第１期生は、最高学年（６年）となり、先月（３月３、４日）に、新制度初の薬剤師国家試験を受験いたしました。一方、４年制（生命創薬科学科）の同僚学生は、その多くが大学院修士課程に進学して修士２年間の研究活動を修了いたしました。

６年制の教育では、医療人として人間性豊かなコミュニケーション能力と高度な先端医療に対応できる研究心のある優れた薬剤師の養成が求められています。４年制においては、修士課程２年間を加えて、いわゆる４＋２年制で、臨床現場のわかる優れた創薬研究者・技術者の育成が期待されています。本学薬学部の特色は、この両学科の学生が共に４年次の同時期から研究室に配属され、ここで切磋琢磨して成長することによって、社会に出てから信頼して協力し合うことのできる土台ができるということであります。

しかしながら、６年制教育制度の導入により、教員の研究に集中できる時間が大幅に減少し、研究意欲の低下や将来の研究環境への不安が懸念されており、新たな研究体制の再構築が不可欠となっています。このように薬学を取り巻く環境は大きく変わり、いろいろな問題が山積みしていますが、そもそも大学が社会から求められていることは、研究に基づく教育であります。つまり、研究なくしては教育は語れないのです。教員一人ひとりに新しい薬学教育・研究を行うという意識改革が必要であり、特に、研究活動の向上を真剣に考えなければならない時期に来ています。

薬学研究において重要なテーマは、「創薬」、「適薬」、「育薬」の３つであると考えられます（図）。「創薬」は言うまでもなく、新薬創製に関わるすべての薬学分野の研究です。特に現在では、従来型の経験や偶発的事象による創薬から、創薬標的分子の立体構造解析データとコンピュータシュミレーション技術とを駆使した論理的な創薬へとパラダイムシフトしています。「適薬」とは、ゲノム診断等による患者個々人の遺伝子体質に適合した適正な薬の処方をデザインしたり、制癌剤投与のプロトコール作成等、臨床現場に即した研究です。「育薬」は、市販後の医薬品の使用によって明らかになった副作用等の諸問題に対して、問題を提起し、適正な解決策を追究するとともに製薬企業の創薬開発にフィードバックする研究です。



これからアカデミアとして薬学の進むべき新たな道は、これら３つの柱となる研究の基盤を築き、製薬企業と医療現場との有機的な連携を強化するための架け橋となることであると考えられます。薬学教育・研究は、薬学が人間を対象にした実学であるとは言え、ただ単に先端科学・技術や職業選択等の実益的なことに関するものではありません。薬学は、物質科学から生命科学、さらには宇宙環境まで守備範囲が最も広い学問であり、その基礎をしっかりと学び、それを土台に変化していく社会に対応できる創造性の豊かな人材を育成していくことが、本質的に大事なことであります。ここから、他者への寛容な心、共に生きるという視点を持つことができるようになり、薬学の最終命題とも言える「人の命を救う」心構えができてくると思われます。ここに21世紀の医療を照らす薬学の将来があるのではないでしょうか。

平成24年度「実践社会薬学」の開講

17年目を迎えた「実践社会薬学」。本年度のスケジュールは以下の通りです。４月14日（土）よりスタートし、最終日６月２日には情報交換会が予定されています。

講師は薬学部卒業生に御協力いただき、行政、薬剤師会、薬局、病院、企業の分野において活躍されている先輩方から在学生に講演していただきます。諸先輩の社会での経験・生きた情報は、現役の学生にとってなかなか聞くことのできない貴重なものです。もちろん、同窓生であればどなたでも講義を聴くことが出来ますので、ご出席お待ちしております。

平成24年度「実践社会薬学」講義予定表

	日程	時間	講師名	所属	期	タイトル	内　容
導入	4月14日	13:00～13:45	上村　直樹	薬学部同窓会副会長			
行政　薬剤師会		13:45～14:30	佐々木正大	厚生労働省医薬食品局審査管理課化学物質安全対策室	32	厚生労働省に勤める薬学部卒業生って何しているの？	薬学部を卒業して霞ヶ関に勤めるとどのような仕事をするのか、講師の実体験、テレビ、新聞などの身近な話題、皆さんが聞いたことのある話題からその内容をわかりやすく解説します。
		休　憩					
		14:40～15:25	石田　真理	医薬品医療機器総合機構新薬審査第１部	43	新薬の効き目や安全性のチェックはどうなっているのだろう。新薬の承認審査という仕事	新薬は、販売される前に行政側でその効き目や安全性についてチェックします。機構（PMDA）では実際どのようなことを行っているのか、その内容を最近の事例を挙げて判りやすく解説します。
		15:25～16:10	松本　洋典	厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課	43	独立行政法人から厚生労働省に出向して見えてきたもの	医薬品医療機器総合機構に入ったつもりが、突然、厚生労働省に異動を命ぜられ、そこで見たものとは・・・
行政　薬剤師会	4月21日	13:00～13:45	谷口紗弥子	東京都福祉保健局健康安全部健康安全課食品医薬品情報係	39	東京都庁に勤める薬学部卒業生って何しているの？	薬学部を卒業して東京都に勤めるとどのような仕事をするのか、日頃の業務の事例を紹介し、わかりやすく解説します。
		13:45～14:30	鵜野　玲美	日本薬剤師会学術業務課	35	日本薬剤師会って何するところ？	医療の現場で働く薬剤師を支援する薬剤師会の仕事などを紹介します。
		休　憩					
		14:40～15:25	金澤　幸江	ポプリ薬局	12	薬剤師は地域連携の中で期待されているよ！	休日・夜間対応、災害時対応、地域ケアネット、介護認定審査会、学校薬剤師、在宅医療
		15:25～16:10	雲越　俊介	富士見台調剤薬局	45	保険薬局の業務っていろいろあるね！	MRを退職して、保険薬局に勤務する身となった私の経験を踏まえて、薬局における様々な業務について懇切丁寧にお話します。
病院	4月28日	13:00～13:45	小高　賢一	国立成育医療センター薬剤部長	13	薬剤部長の考える病院薬剤師	薬剤部長が病院薬剤師の現状を踏まえて将来像と問題点など後の講師を紹介しつつ話します。
		13:45～14:30	紺野　英里	国立がん研究センター中央病院レジデント	47	薬剤師レジデントについて	今年、がん研究センター中央病院レジデントを終了した紺野講師が、レジデントの道を選んだ心境や癌治療に対する思いについて話していただきます。
		休　憩					
		14:40～15:25	服部　　聡	川崎市立多摩病院（聖マリアンナ病院）	48	若手病院薬剤師の一日	３年目を迎えた若手病院薬剤師の服部講師が２年間の軌跡と彼から見た病院薬剤師について話していただきます。
		15:25～16:10	山浦　佳子	虎の門病院		小児・女性病棟における病棟薬剤師の業務	中堅薬剤師となり、小児・女性病棟で専門的な業務を行っている山浦講師より病棟薬剤師の業務と認定薬剤師を視野に入れた取り組みについて話していただきます。

企業	5月12日	13:00～13:05	若松　正克	新日本科学	26	企業の部　はじめに	
		13:05～14:00	田口　伸行	アステラス製薬	39	(営業) MR（医薬情報担当者）のここでしか聞けない本音話	MR（医薬情報担当者）の一日・・・「嬉しかったこと」「辛かったこと」に加え、あまり大きな声で言えないような裏話を紹介します。
		休　憩					
		14:10～15:05	中野　正吾	テルモ	23	(医療機器・薬事)医療機器の臨床試験　－具体的な事例を中心に－	機器というと堅苦しい響きがありますが、例えば、身近なところでは“体温計”、そして“心臓カテーテル”も医療機器なんです。医薬品あるいは医療機器の申請業務の話を交えて紹介します。
		15:05～16:10	真嶋　修慈	第一三共	38	新薬開発　－臨床試験立案・モニタリングから申請・承認取得まで－	新薬開発（適応拡大を含む）の主役である開発担当者の業務について、モニタリング業務を中心に、必要となるスキルも交えながら幅広く紹介します。
企業	5月19日	13:00～13:05	若松　正克	新日本科学	26	前週の復習（医薬品業界とは）	
		13:05～14:00	飯野　直子	テラ	21	「ベンチャー企業の現状と課題‥細胞・再生医療の産業化にむけて」	細胞・再生医療の実用化・産業化について、患者志向かつベンチャー志向で物事を考えてみよう。
		休　憩					
		14:10～15:05	樽野　弘之	第一三共	22	「製薬会社の中では、薬学生が中心的な役割を果たすべきではないだろうか」	製薬会社が向かうべき姿(グローバル化､ハイブリッド・ビジネスモデル）とこれからの薬学生が果たすべき役割（能力およびスキル）を考えてみよう。
		15:05～16:10	座談会			座談会	
企業	5月26日	13:00～13:05	若松　正克	新日本科学	26	前週の復習（医薬品業界とは）	
		13:05～14:00	若松　正克	新日本科学	26	企業で求められている学生とは(付録：製薬会社モニターとCROモニターの違い)	企業で人材開発・採用を担当した立場から、どのような学生が企業から求められているか、学生の間にどのような準備をすればよいかのヒント、自己啓発の重要性を紹介します。
		休　憩					
		14:10~15:05	中村　　宏	ディーエイチシー	23	(一般薬・サプリメント) 身近なクスリ・OTC薬とは	TVCMでおなじみのOTC薬は、どのように開発され、市場に出されて行くのか、医療用医薬品の開発とは一味違ったOTC薬の姿を紹介します。
		15:05～16:10	座談会			座談会	
ベテラン新人全体座談会	6月2日	13:00～14:30	SGD			講義で聴きたかった事、確認したいこと、全部聞いちゃおう	
		休　憩					
		14:40～16:10	SGD			講義で聴きたかった事、確認したいこと、全部聞いちゃおう	
情報交換会	6月2日	16:30～18:00	参加可能講師陣			講師陣と受講者の懇談会	質問できなかったことの最終確認・討論

講座番号：12B061

専門実務講座

第28回　薬学講座　開催要項

期　　日	平成24年10月20日（土）
時　　間	10：30 ～ 17：00（10：00　受付開始）
定　　員	240名
場　　所	東京理科大学神楽坂校舎１号館17階（記念講堂）
参 加 費	2,000円（講演要旨代を含む）
	※昼食代は含まれておりません。なお、学生食堂は営業しております。
主　　催	東京理科大学薬学部
共　　催	東京理科大学生涯学習センター
	東京理科大学薬学部同窓会
	公益財団法人日本薬剤師研修センター
	文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業

● 開催の趣旨 ●

平成18年に導入された薬学部６年制の一期生が卒業し、今後薬剤師に求められる業務も益々高度化・多様化すると考えられます。本講座も生涯学習の一環として、益々現場薬剤師、また医療関係者の皆さまの一助となることを願いつつ、下記の講演４題を用意致しましたので、奮ってご参加ください。

現在、福島原発事故による環境への放射能汚染が大きな問題となっています。放射能汚染が人体に及ぼす影響について解説して頂く。次いで、「スポーツファーマシストとアンチ・ドーピング活動」について講演をして頂く。スポーツファーマシストは、競技者を含めたスポーツ愛好家などに対し、薬の正しい使い方の指導、薬に関する健康教育などの普及・啓発を行い、スポーツにおけるドーピングを防止することを主な活動とし、その認定制度は新たな薬剤師の活動分野として日本アンチ・ドーピング機構より認定される資格制度です。次に、薬剤師は調剤だけでなく、臨床知識を持った専門薬剤師は医療チームの質の高い医療に貢献することなどが期待されています。このような背景のもと、「今後の薬剤師像」について講演して頂く。また、今回の薬学講座は「文部科学省がんプロフェッショナル養成プラン採択事業」との共催で開催致します。「ゲノム創薬科学」の立場より、医薬品開発のための標的タンパク質分子の立体構造情報に基づいて、最適な医薬品を理論的に創成するためのコンピュータシミュレーション技術による「個別化医療とin silico創薬」について講演をして頂く予定です。

● 講座のお申し込み方法について ●

原則、インターネットでのお申し込みのみとさせていただきます。インターネットがご使用になれない方は、東京理科大学生涯学習センターまでお問合せください。なお、受付締切は平成24年10月10日（水）とさせていただきます。また、定員になり次第締め切らせていただく場合もありますのでご了承ください。

インターネットによるお申し込み

① 東京理科大生涯学習センターのホームページからお申し込みください。

http://www.tus.ac.jp/manabi/

受付結果の送付

① お申し込み受理後、受付結果兼受講証（払込用紙含む）を郵送でお送りいたします。

② 定員に達し、受講できない場合も受付結果はお知らせいたします。

受講料の振り込み

① 受付結果兼受講証が届いた日から１週間以内にお振り込みください。

講座受講

① 払込受領証を貼付した「受付結果兼受講証」をご持参の上、会場にお越しください。

第28回　薬学講座プログラム

（司会　山下　親正）

10：30 ～ 10：35　　開会の辞　　実行委員長　浅田　善久

10：35 ～ 10：40　　**学部長挨拶**　　東京理科大学　薬学部長　田沼　靖一

10：40 ～ 11：50　（座長　海保　房夫）

「原発事故に伴う環境の放射能汚染と人体影響」

東京理科大学　薬学部　教授　**小島　周二**

≪11：50 ～ 12：50 昼食・休憩≫

12：50 ～ 14：00　（座長　小林　進）

「スポーツファーマシストとアンチ・ドーピング活動」

社団法人東京都薬剤師会　副会長　**原　　博**

≪14：00 ～ 14：15 休憩≫

14：15 ～ 15：25（座長　鍛冶　利幸）

「今後の薬剤師像」

独立行政法人医薬品医療機器総合機構　審査マネージメント部　部長　**磯部総一郎**

≪15：25 ～ 15：40 休憩≫

15：40 ～ 16：50（座長　山下　親正）

「個別化医療とin silico創薬」

理論創薬研究所　所長　**吉森　篤史**

16：50　　閉会の辞　　実行委員長　浅田　善久

※今回の薬学講座は日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度の認定対象研修会であり、参加される場合は、３単位の修得となります。
ご希望の方は、当日会場にて受講シールをお受取りください。なお、途中入退場者にはお渡し出来ません。実質４時間30分を受講した方に受講シールをお渡しします。

お申し込み先

東京理科大学生涯学習センター

〒162－8601　東京都新宿区神楽坂1－3

TEL：03－3267－9462　　FAX：03－3267－2048

E-mail：manabi@admin.tus.ac.jp

URL　http://www.tus.ac.jp/manabi/

平成24年度
東京理科大学薬学部同窓会総会および講演会のご案内

本年度の同窓会総会および講演会を下記にて開催致します。万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申し上げます。

■日　時：平成24年７月28日（土）14：00 ～

■場　所：インテリジェントロビー・ルコ　（軽子坂MNビル）

東京都新宿区揚場町２－１　軽子坂MNビル１F　電話：03-3266-9311

●同窓会総会、講演会および懇親会のすべてを上記会場で開催致します。

■次　第：14：00 ～ 15：00　同窓会総会

15：00 ～ 17：00　特別講演会

「ジェネリック医薬品と医療安全」

～横浜市大病院の導入事例を踏まえて～

公立大学法人横浜市立大学附属病院薬剤部　小池　博文（32期）

（財）日本薬剤師研修センター認定（１単位）

17：30 ～ 19：30　懇親会

■会　費：懇親会　5,000円

小児薬物療法の問題点と小児薬物療法認定薬剤師制度

国立成育医療研究センター　薬剤部長　小高　賢一（13期）

はじめに

13期の小高（おだか）と申します。私は現在、国立成育医療研究センター薬剤部に勤務しており、過去４年間小児医療に携わってきました。間近で見る小児医療は問題が山積しています。社会全体の大きな問題としては小児科医の不足があります。また、診療報酬上でも手厚い医療が必要とされる小児科領域では採算を取ることが困難な状況にあります。薬剤師が直接関わる部分においても医薬品の適応外使用や小児剤形のことなど薬物治療の根幹に関わる問題が数多く見られます。これらの問題は小児科領域の薬物療法適正化を阻む大きな要因となっています。本稿では、はじめに小児科領域の薬物療法を適正に遂行するための問題点について説明し、次に今年度から新しく制度化された小児薬物療法認定薬剤師についてご報告いたします。

１．小児薬物療法の問題点

・医薬品の適応外使用（Off-label use）の問題

小児領域の薬物治療における一番の問題点は小児に対する適応を持っていない医薬品が多いという現状です。医師はやむを得ず適応外使用を行いますが、保護者への説明、診療報酬上の査定など多くの問題を含んでおり、使用する医師へのプレッシャーの大きさは想像がつきません。前述のとおり適応外使用を行う場合は保護者への説明と同意は必須となり、診療時間が長くなります。また、適応外使用で起きた副作用が医薬品医療機器総合機構（PMDA）の医薬品副作用被害者救済制度の対象となるのかどうかも難しい問題です。例えば抗菌剤の注射用シプロフロキサシンは小児等への投与は禁忌（炭疽を除く）となっていますが、生命の危機にかかわるような他剤無効例では使用しています。副作用が生じた場合、公的な救済が得られるかについては、症例ごとに検討するため申請してみないと分かりません。診療報酬上の問題として査定の懸念があります。当センターでは救命を優先し、査定覚悟で使用することもありますが、高額の医薬品であれば病院経営にも影響します。平成24年４月に変更となったレセプトの審査方法により保険薬局においても小児に対する使用に疑問を持った場合は疑義照会をしないと保険薬局が査定の対象になる可能性も出てきました。

厚生労働省は未承認薬、適応外使用の問題を解消するために「医療上の必要性の高い未承認薬、適応外薬検討会議」を開催し、小児科領域をはじめ精神・神経領域やがん領域などの各学会から集めた意見を基に企業に対して医薬品の開発要請や公知申請による適応追加などの承認申請を依頼し、適応外使用の減少や未承認薬の承認促進に努力しています。当センターの薬剤師はこの検討会議の小児科領域のWGに参加し、小児科学会からの意見を集約し、検討した結果を親会議に学会の要望として提出しています。ワルファリンやアムロジピンなどはこの検討会議の結果を踏まえて、企業側から公知申請され、小児適応の追加承認を取得しました。

・小児剤形の問題

薬物療法を行う患児にとって剤形は非常に大きな問題です。内服薬は服用して初めて効果を発揮します。ところが医薬品には散剤や液剤のような小児に適した剤形を持たないものも多く存在しますし、粉砕不可の錠剤もあります。一般的に医師から錠剤粉砕の指示が出ると、粉砕の可否を確認し、概ね「否」でなければあまり疑問を持たずに各薬剤師が各々の方法で錠剤を粉砕し調剤していると思います。恐らく日本全国どこの保険薬局、病院の薬剤部でも日常的に行われている作業だと思いますが、異なる薬剤師が異なる方法で粉砕した場合に吸収率、速度に違いが生じるかもしれないと考えている薬剤師は少ないようです。粉砕機で粉砕した場合、ラフに薬を乳鉢内ですり潰した場合など同じ薬効を発揮するでしょうか。私の知る限りではこのような研究はほんの一部でしか行われておらず、我々はエビデンスのない粉砕方法で調剤した薬を、目を瞑って「エイヤアー」とばかりに子ども達に投薬しているのが現状です。

当センター薬剤部では粉砕頻度の高い錠剤の調査、研究を行っており、小児剤形の問題では積極的に企業などからの相談を受け、小児剤形の問題解決に協力しています。最近の例では小児適用を取得したワルファリンが挙げられます。最初に発売された散剤は光に対する対策がなく、遮光しての保管が必須となりました。その後、先発品を販売しているエーザイから当薬剤部に相談があり、現場の意見として遮光対策のクリアは必須であると回答しました。ご承知の通り市場に出たワーファリン細粒は粒の一つ一つに遮光目的のコーティングが施されており、取り扱いが容易な製剤となって登場いたしました。

２．小児薬物療法認定薬剤師制度

・認定薬剤師制度の意義

今まで述べたように小児の薬物療法を適正に遂行する

には多くの問題が山積していますが、小児科領域の薬物療法への薬剤師の関与は成人の生活習慣病や悪性腫瘍の分野と比較して格段に低いように思われます。当センターに来るまでの私を含め大部分の薬剤師は小児に対する関心が薄く、小児に対する勉強を疎かにして来たのではないかと思われます。

もう一つの見方としては、今まで小児科領域の薬物療法等について質の良い研修を受ける機会がほとんどなかったとも言えます。本認定制度の立ち上げによって人数の制限はありますが、小児科領域全般を網羅した研修の機会を設けることができました。今後は全国の薬剤師に関心を持っていただき、学習機会が増えることを期待します。

本認定薬剤師制度の第一の目的は継続的に学習することであり、認定薬剤師取得がゴールではありません。更新を繰り返して長く小児医療に貢献してもらいたいと思っています。第二の目的は小児科領域で活躍されている薬剤師を全国から集め、力を一つにして、この分野での薬剤師の関与をより深くする目的があります。この認定制度の最大の目的は適切な薬物療法を推進できる薬剤師を多く育てることです。

以下は私だけが言っているスローガンです。「オール薬剤師で子ども達を守ろう、育てよう。」子どものことをよく分かっている薬剤師が増えることは少子化に歯止めをかける一助になるのではと確信しています。

・認定薬剤師制度の認定と更新

平成24年度より小児薬物療法認定薬剤師がスタートしました。この認定制度は日本小児臨床薬理学会と日本薬剤師研修センターが共同で認定します。病院、診療所、保険薬局に３年以上勤務する薬剤師に講義を受講する資格があります。34コマの講義（Web方式）と１日だけ全体講義を受け、試験に合格し、登録病院で１日（６時間）の見学実習を終了した方が認定申請の資格を得られます。更新要件は継続して学習していただくことを主眼に置いた内容になる予定ですが、現在検討中です。詳細は日本薬剤師研修センターのHPをご覧ください。

トピック

東京理科大学薬学部の現状

薬学部教員（薬物治療学）　青山　隆夫（17期）

東京理科大学薬学部はこの春で創立53周年を迎えた。校舎は、2003年に都心の神楽坂から千葉県野田市に移転している。本学部は、従来から研究者養成志向が強いことが知られているが、1996年に医療系大学院が設立されてから徐々に医療職に就く者が増加していることを受けて、2006年の薬学教育６年制への改組では、薬剤師養成を目的とした薬学科（６年制、定員80名）と研究者養成を目的とした生命創薬科学科（４年制、定員100名）の２学科に再編された。薬学科のコンセンプトは「ヒューマニティーと研究心にあふれる質の高い薬剤師の養成」、生命創薬科学科は「高度な知識と技能を備え、世界をリードできる薬学（創薬）研究者の養成」である。

野田キャンパスには、薬学部が移転する前から理工学部（1967年）と基礎工学部（1987年）が設置されている。薬学部は、最寄駅の東武野田線の運河駅から少し離れた緑豊かな広大な敷地内にあり、多くの校舎がレイアウトされている。それらは13号館（講堂、レストランみなも、メディアコーナー、学生ホール）、14号館（講義室、基礎系実習室）、15号館（研究室、医療薬学教育研究センター）、16号館（講義室、医療薬学実習室）から構成され、関連施設として、薬草園、DDS研究センター、ゲノム創薬研究センター、創薬情報科学センター、分析化学センター、ナノ粒子健康科学研究センター、界面化学研究センターなどがある。医療薬学実習室は、６年制の薬剤師養成教育に対応したものであり、多人数が一度に実習することが可能な調剤実習室、無菌調剤実習室、製剤実習室、病棟実習室、SDG室（10室）などを有している。

１）学生、教員と研究室

入学する学生は、全国各地から集まっているが、神楽坂の時に比べて、神奈川県出身の学生が減って地元の千葉県が増えている。学科再編当初は、女子の入学者数が激減したが、その後、薬学科は徐々に増えて、今春は６：４で女性の入学者が多くなっている。４年制学生も９割以上が修士課程に進学していることから、入学した学生のほとんどが６年間の大学生活を送っている。

研究室は、従来の講座制から研究室制に変わり、現在は講師以上の37名の教員が研究室を構えている。分野別の内訳は、生命薬学：12、創薬科学：12、環境・衛生薬学：２、医療薬学：11となっている。４年制学生は薬剤師国家試験の受験がないことから、修士課程も含めた３年間を研究活動に没頭することができる。６年制学生も４年次から研究室配属され、医療薬学実習や病院・薬局

での実習の合間に精力的に研究を行っている。

２）薬剤師国家試験合格率と進路先

薬学科は今春に初めての６年制学生74名が卒業し、薬剤師国家試験を受験した。新しい国家試験は、問題数が345問に増え、特に臨床系・薬剤師実務系の問題が多くなっており、新規の方式として基礎と実務系の問題を絡めた複合問題が出題されている。本学の合格率は100％（全国１位）であり、留年や卒業延期者数を考慮した合格率も全国１位であった。

６年制の卒業生の進路は、病院薬剤師が34％、薬局・ドラッグストア28％、企業22％、公務員11％、博士課程進学４％、その他１％であった。薬剤師養成に特化した学科であるため、薬剤師職に就く者が多い。一方、４年制の修士課程の卒業生（73名）は、企業への就職がほとんどであり、研究開発が66%、営業12%、企業の他職種７％、公務員３％、博士課程進学７％、その他５％であった。

３）他施設との連携と生涯教育

薬剤師教育の内容を充実させるには、臨床と連携した教育を行うことが必要であるが、本学は他の医療系学部や医療施設を持っていないことから、近年、積極的に他施設との連携を深めている。筑波大学とは2006年から附属病院との連携、2009年からは研究活動も含めた包括協定を締結しているおり、その中で、６年制の５年生が筑波大学の医学生や看護学生とSGD方式で症例を検討する実習（ケア･コロキウム）が2010年度から実施されている。がんプロフェッショナル養成大学院課程は2008年からスタートしており、順天堂大学医学部と連携した教育を行っている。これらにより専門知識や技能に加えて、チーム医療を学んでいる。

生涯教育としては、従来から、主に卒業生を対象とした「薬学講座」を年１回、神楽坂の施設で開催されており、毎回約200名が参加している。さらに６年制の薬剤師実務を習得するための調剤実習室や無菌製剤室などを利用して、病院や薬局に勤務する薬剤師の生涯教育を目的とした研修会（東京理科大学薬剤師基礎実務研修プログラム）を定期的（月１回）に開催している。開催日は週末の午後の４時間で、講師は実務家教員や近隣の病院や薬局の経験豊富な薬剤師に依頼している。研修内容は、「注射剤の混合調製の基礎と実際」、「抗がん剤の調製の基礎と実際」、「調剤室でできる製剤」、「臨床薬剤師業務の基礎と実際」、「臨床研究の進め方」「バイタルサインの取り方と見方」、東京理科大学SP会の模擬患者を講師とした「医療コミュニケーションの理論と実際」などとなっている。１回の参加者は10 ～ 20名であり、本学が位置する千葉県北部の薬剤師会各支部の会員が主であるが、他地区からの参加者も受け入れている。大学と臨床現場の情報交換の場でもある。

本学薬学部の卒業生は、各分野で沢山の方が活躍されている。一方、薬学部は野田キャンパスへの移転と薬学６年制に伴う改組のためにシステムが大きく変わり、それに対応して、教育・研究レベルを維持・向上すべき努力を続けている。今後も、卒業生の皆さまの各方面からの温かい御支援をいただきたい。

“T字型人材”の育成に触れて

帝京平成大学 薬学部 教授
東京理科大学 薬学部 客員教授
早稲田大学 商学研究科等 非常勤講師　枝川　義邦（30期）

この度、錚々たる先輩方に並んで近況をご報告する機会を頂きました。私は大学院を出てすぐに大学に勤めましたので、自分の専門性を掘り下げることだけを考え続けていたのですが、ひょんなことから人材育成の場に触れる機会を得ることができました。自分にとっては目から鱗が落ちるほどの経験を積む機会となり、ものを見る切り口が変わった契機でもありました。今回、執筆のお声かけを頂いたのも、このようなことがあったからだと思います。そこで、この場をお借りして、驚きとともに始まった自分の体験を振り返ることに致しました。

いまや専門家と呼ばれる人材であっても、分野融合の枠を越え、文理融合の視点が重要になってきています。自らの専門性を深く掘り下げて、さらに興味の範囲を拡げていく。専門性の追求を縦糸とするならば、視点を拡げることは横糸を通す作業になります。勿論、全ての分野を深く掘り下げることは無理なことですから、自分の専門だと胸を張って言える分野をまずもって、それを軸にして横方向へ展開していくと、ちょうど「T」の字をなぞるような領域が自分の守備範囲になります。このような、高い専門性を持ちつつもグローバルな視点を持ち合わせた人材を「T字型人材」と呼び、“グローバル何某”という用語が飛び交う現代の人材に必要な素養だと言われていますが、この獲得には個人レベルでの努力ではなかなか実現が難しく、教育プログラムの必要性が謳われてきています。

今回は、自分自身が実際にそのような場に飛び込んだ体験を少しお伝えしたく思っています。

私が「T字型人材」という言葉に触れたのは、何度か大学を移る中で、早稲田大学に籍を置くようになってからのことです。ずっと大学の組織におりますので、なかなか“実社会の事情”を映した考え方に触れる機会がなかったのですが、属した組織が「融合」を謳い、科学技術と医療系という「分野の融合」だけでなく、「文理融合」も目指すプログラムを動かし始めたことがきっかけになりました。

ともすれば、顕微鏡を覗いて見える範囲が世界の全て、となりがちな理系研究者に広く社会を見渡せる素養を身につけさせたい。このようなビジョンで設置されたプログラムがそれなのですが、プログラムの修了時にはコミッティーから評価を受けて、「スーパー・テクノロジー・オフィサー（STO）」という称号を得ることができるものです。

このプログラムの出口条件は、次のようなものです。まず、専門職大学院であるビジネススクールに通い経営学修士号（MBA）を取得すること。つぎに、研究プロジェクトのリーダーとして運営・推進に携わること。そして、大学の理系研究者として理科の啓発活動を積極的に実施すること。以上を３軸とした最終評価を通過することです。

研究や外部発信については、自分の専門分野の延長線上にあるものなので、それまでの研究生活を続けていてもいつかは携わるものです。しかし、改めて大学院の学生となり、しかも社会科学系の分野で新しく学位取得を目指すことについてはハードルが極めて高いものでした。

ビジネススクールでは、ビジネスを生業とする方々が社会人大学院生として集います。そのような「専門家」の中で、現実社会の曝露を受けていない研究者がどのように振る舞うのか。実はプログラムの裏メニューには、これを観察することも含まれていたのではないかと思うことが幾度もありました。無鉄砲な選択をしたとつくづく感じたのは、ビジネスの専門家の立つ土俵で相対評価を受けることを知ったときでした。

“ビジネススクール”“MBA”というと、大変スマートな印象を持つ方が多いのかと思いますが、そのようなイメージとは裏腹に、徹夜を繰り返してレポート作成や期末試験対策など、力業でこなすことが多かったように思います。具体的なお話は、紙面の都合で別の機会に譲りますが、かつて学生の頃でもこんなに時間を割いて取り組んだ科目はない、と告白するとご指導を受けた先生方のお叱りを受けそうな程、修学期間の生活リソースを割くことが求められました。しかしこのような時期を経ることで、学習した内容以上に、人の繋がりや充実感を得ることができ、今では都合のよいことにハードな時間を過ごしたことへの印象が薄れてきています。

なんとか修了しMBAホルダーとなることで、先のSTO審査にエントリー、晴れて認定の運びとなりました。写真は、初代STOの認定式のものです。

このようなプログラムに参画して思うことは、やはり、それまでの研究生活を続けるだけでは出会うことのない世界だったろうということです。勿論これまでも理系人材が様々な場面で活躍していますが、現場での経験を積むだけではなかなか体得することができないことを教育プログラムは効率よく身につけさせてくれます。これがこのようなプログラムの必要性を感じた大きな理由です。

私自身のクオリティは口にするのも憚れますが、優秀な人材を間近で見られ、まさにこれから開花しようとする瞬間を感じられたことは、大きな経験でした。そして、そのような経験があるか否かという違いが、ものの見方に大きく影響するのだと感じております。このような思いを伝えたく、現在は薬学関連の科目以外にも、ビジネススクールでも教鞭を執るようになりました。

ご縁を頂き、この４月より帝京平成大学へ移りました。新しい環境で、これまでの自分の経験を活かしながら精一杯のことをして参る所存です。新しい職場で、新しい職位で、気分一新八面六臂の大活躍、となればこの文章の締めくくりにはもってこいの近況となったところですが、実は現職の大学には理科大からの先生も多くいらして、かつて自分が学生だった頃の記憶が蘇ってきています。その先生方と同じ目線で学生に接する立場とはなりましたが、いまでも常にご指導いただいているような温かい視線を感じて誠に恐縮しております。思えば、多くの方に助けられ、これまでの経験を積んでくることができました。いつも感謝の心でおります。これからもよろしくお願い申し上げます。

退任のご挨拶

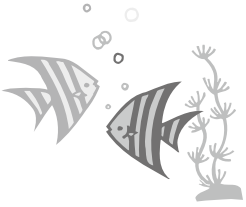
40年の理科大薬学部生活

公衆衛生学研究室　鈴木　潤三

1971年に理科大学理学部の修士課程を修了して微生物学教室鈴木静夫研究室の助手になって以来40年、この３月をもって定年退職することになりました。大きく健康を損なうこともなく今日まで教員としての職務を無事全う出来ましたのは、故鈴木静夫教授を初め、諸先生方、職員並びに同窓の皆様のご指導とご支援の賜と、心より御礼申し上げます。

在職40年の間には薬学部にも多くのことがありましたが、何より1994年３月に鈴木静夫先生が60歳の若さで急逝されてしまったことは痛恨の極みでした。その後、講座制から研究室制への移行、野田移転、そして2006年の薬剤師教育６年制への移行と、薬学部にとってまさに激動の連続でした。

この３月薬学科74名が６年制１期生として巣立っていきますが、そのうちの五十余名が病院・薬局の薬剤師として活躍することになるとのことです。理科大薬学部にとって何という変わり様でしょうか。しかし、同時に４年制生命創薬科学科を出て修士課程を修了した学生72名も製薬メーカーを初めとした多くの企業での活躍を目指して社会に出て行きます。この度の教育制度改革で、薬剤師養成と研究者・技術者養成をこのようにほぼ半々にしたのは、私学では理科大学のみでした。理科大学の伝統を活かした賢明な選択であったと思います。しかし、両学科の特徴の出し方や教育負担のバランス、臨床研究の発展など、まだ解決しなければならない問題も多く残されていることを感じます。これらの問題を克服し、理科大学薬学部が益々発展することを期待して止みません。



退職のご挨拶

医薬品安全性学研究室　砂金　信義

東日本大震災で被災された同窓の方々には、１年が経過した今も復興に向けて日々努力されていることと思いますが、皆様退職のご挨拶の願いが１日も早く叶うよう祈念申し上げます。私事になりますが、昭和47年に助手として採用され、平成24年３月に定年を迎えます。理科大薬学での生活は40年にも及び、在り来たりな言葉ですが、長くもあり、短くもありました。凡庸な私がこれまで大過なく過ごし来られたことは、この間に私と関わって頂いた同窓、とりわけ薬理学研究室および臨床薬学研究室における卒研生、大学院生のお陰であることは言うまでもありません。理科大薬学に私が貢献できたことは何かと考えますと、全くもって心もとないものでしかありません。助手時代は、平滑筋の薬理が面白く、全くマイペースで実験に明け暮れ、講義を担当するようになってからも、周到な準備なしの授業で、受講生はさぞかしか苦労されたことと思います。ただ、理科大の40年を通して、心がけたことは「分からないことは、そのままにしておかない」と言うことで、「ものを知る楽しみ」を同窓の皆様にも共有して戴けたならば望外の喜びです。稿を終えるにあたり、同窓の皆様の今後の益々のご発展を祈念申し上げます。

東京理科大学薬学部勤務10年間を振り返って

創薬ゲノム科学研究室　増保　安彦

本年３月をもって東京理科大学を定年退職致しました。平成14年４月に本薬学部に赴任し、10年間勤務して学生たちと共に過ごしました。それまでの29年間は製薬企業の研究所で創薬研究に携わり、アカデミアに職を得るとは予想外のことでした。仕事に慣れるのに四苦八苦しましたが、学生たちとの心の絆はそれを越える喜びでした。すぐれた学生たちに恵まれると共に、先生方のご指導･ご理解と事務課の皆さんなどのご協力の賜物と感謝しております。

『理科大発の新薬を目指す』を合言葉に、抗体創薬と標的分子の研究を進めてきました。学生たちは実によく研究に専念していました。成果が少なかったとすれば、それは私の指導が至らなかったせいに違いありません。彼らが、増保研での３年間の経験を基に、創薬研究あるいは臨床開発で社会に貢献してくれるものと期待しています。

薬学部に、３つのお願いがあります。１．４年制の教育についてもっと検討して頂きたい。薬剤師育成のためのコア･カリキュラムから離れて、創薬科学に必要な教育を。また、２年生終了時に、成績の良い学生から順にYMかYPかを選択させる。２．学部全体の教授会以外に、YM教員を含む基礎系教員の会議を持つべきである。薬学部における研究者の意思の疎通が実に乏しいから。３．教授会において、「理事長（あるいは理事会）の意向」と言って、決済の方向付けするのは止めるべきである。教授会の自立的な討論が損なわれるから。

３つのお願いを挙げましたが、よろしくご勘案されて本学部が大きく発展することと皆さんのご健康を祈念致しております。

新任の挨拶

臨床分析科学研究室　東　達也

平成23年４月より分析化学の講義ならびに実習を担当しております。よろしくお願いします。私の生まれは石川県です。地元の金沢大学に進み、修士課程まで島田和武教授から臨床分析科学（診断・治療をはじめ、医療に役立つ分析科学）の指導を受けました。その後、一時期製薬会社に勤めましたが、職員として金沢大学に戻り、静岡県立大学を経て東京理科大学のメンバーに加えていただきました。

現在、力を注いでいる研究テーマは「唾液で臨床検査」です。「被験者（患者さん）に負担をかけることなく採取できる唾液を用いて、超微量の生体分子情報を取り出し、診断・治療に役立てる」これが我々の目指すものです。「超微量」という大きな壁は分析科学の力で乗り越えます。十分な機器もそろっていない中、学生たちは頑張って研究に取り組んでいます。私の好きな言葉に「多逢聖因」というものがありますが、「たくさんのいい出会いがあれば、それが原因で良い結果を生む」という意味です。素晴らしい学生たち、教職員、OB・OGがいるこの理科大薬学部に来られたことは、まさに「多逢」です。これを活かして立派な研究成果を発信するとともに、OB・OGの皆様に負けない人材を輩出できるよう努力したいと思います。

新任の挨拶

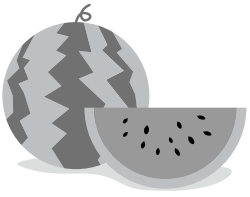
製剤学教室　山下　親正

平成23年４月から芳賀信教授の後任として製剤学教室（DDS・製剤設計学）を担当することになりました山下です。宜しくお願い申し上げます。

製剤学は薬学部独自の学問で、臨床現場に最も近く、知識だけではなく、経験が大きく影響する実学の一つであります。薬系大学において製剤学を冠している講座は数多くありますが、臨床現場で役立ち、患者さんに感謝されるような実用化を目指した製剤研究を展開している研究室はあまりないのが現状です。

ところで、私は九州大学大学院薬学研究科を修了後、大塚製薬㈱に入社し、27年間、製剤に関する開発研究を行ってきました。その結果、幸運にも、心不全治療薬「アーキン錠」、中枢性非麻薬性鎮痛薬「レペタン坐剤」及び肝炎治療薬「OIF注射剤」（インターフェロン－α凍結乾燥注射剤）の３製剤を上市することができました。

ここで得られた経験を生きた製剤学として活かし、医療ニーズを踏まえ、患者や医療従事者の視点から製剤設計を行い、本当に医療現場で役立つ製剤を開発できる製剤研究者の育成と、院内製剤の開発や科学的な根拠に基づいた服薬指導ができる創剤薬剤師の養成を目指していきたいと考えております。更に、イキイキワクワクとするような新しい製剤の実用化に繋がる研究を学生と共に、自由な発想とチャレンジ精神を大切にしながら、好奇心と感動を忘れずに楽しみながら少しずつ進めていきたいと考えております。どうぞ、宜しくお願い申し上げます。



平成24年度東京理科大学薬学部地区交流会のご案内

皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。さて、本年度の地区交流会を下記にて開催いたします。万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申しあげます。大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

平成24年６月

東京理科大学薬学部同窓会
会長　石井　甲一

■日時：平成24年10月７日（日）19：00 ～

■場所：オークラアクトシティホテル浜松　２階 「桃花林」
JR浜松駅東口２階（メイワン改札口）より「動く歩道」で直結、徒歩３分
静岡県浜松市中区板屋町111－2
TEL：053－459－0722

■会費：5,000円
※　当日　会場にて徴収させていただきます。

■申込：会場確保の都合がございますので、地区交流会に参加される方は、下記のとおり事前にお申し込みをお願い致します。電話での受付は致しません。

【申込み期限】　９月７日（金）まで

【申込方法】

・同窓会ホームページの地区交流会申込フォームにアクセスし、お申込みください。

・下記内容を明記のうえ、東京理科大学薬学部同窓会事務局宛にご連絡ください。
氏名、卒業期、ご住所、電話番号

【ホームページ】http://www.ridaiyakudo.gr.jp/
理大地区交流会ご案内を掲載しておりますのでご覧ください。

【お問合せ】東京理科大学薬学部同窓会　事務局
〒278-8510　千葉県野田市山崎2641
東京理科大学薬学部内
FAX：04－7121－4531
E-mail：jimu@ridaiyakudo.gr.jp

16期同期会のお知らせ

16期（昭和54年３月卒業）の皆様、今年はオリンピックの年、同期会の年です。
同期会が近づきましたらメイルまたはハガキにて再度お知らせしますので、皆様　お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

■日　　時：平成24年11月23日（金曜） 13：00より
■場　　所：日本出版クラブ会館　東京都新宿区袋町６
TEL　03－3267－6111　　FAX　03－3267－6095
（場所については下記web siteでご確認ください。）
http://www.shuppan-club.jp/
■会　　費：７,000円予定
■幹事担当：河部、石川、柴田、飯塚（旧姓白柳）、金澤（旧姓片岡）
本件のお問い合わせは河部の下記メイルアドレスまでお願いします。
E-mail：fm.kawabe@nifty.com

18期の皆様へ

来年の第25回同窓会総会では18期が幹事学年を務める順番となります。そのためにそろそろ準備を開始したく考えております。具体的には本番までの作業スケジュール作り、組織化方法、講演講師の選定などがあります。また、他の学年でもやっているように事前の適当な時期での18期同期会の開催なども考えられます。
皆様の御連絡先を共有頂き、今後の連絡ルートを確立したく下記にメール頂ければ幸いです。
仮学年幹事：関　裕史（18期　久保田研）
ア ド レ ス：sekihe@jcom.home.ne.jp

放射研究室同窓会のお知らせ

放射化学研究室（薬学部）の同窓会開催のご案内をします。

■日　　時：平成24年10月６日（土） 12時～ 15時
■会　　場：東京理科大学理窓会倶楽部
■住　　所：新宿区神楽坂２－６－１　PORTA神楽坂ビル６階
■電　　話：03－3268－1570
■会　　費：８千円程度

後日、往復はがき又はメールにてご案内します。
お誘い合わせのうえご参加ください。

＊放射生命科学研究室の卒業生も奮ってご参加ください。
連絡先：田畑（16期）：047－371－3099

幹　事：柴田　満政（４期）、中島　勝明（４期）、田畑　新（16期）

剣道部ＯＢの皆様へ

薬学部を卒業された剣道部OBの方は大変多くいらっしゃいます。

東京理科大学剣道部は昭和37年創部以来今年で50周年を迎えることとなりました。

この50年の間皆さんをご指導いただいた斉藤泰二先生は今年数え年88歳になられますので、教え子からお祝いをして差し上げたいと思い、OB、OG、現役そろってお祝い会の開催を計画いたしました。皆様のご参加をお待ちしたくご案内いたします。

お問い合わせは剣道部OB会　会長　春木剛史までお願いいたします。

携帯電話　090-5397-9381

メール　　kinobun@nifty.com

斉藤泰二先生の米寿を祝う会
東京理科大学剣道部創部50周年

■日　時　平成24年11月10日（土）　午後５時より

■場　所　日本出版クラブ会館
東京都新宿区袋町６番地
電話3267－6111

■会　費　10,000円（お祝い記念品代を含みます。）

招待予定者　藤嶋学長・斉藤泰二 名誉師範・
山中茂樹 師範・小沢博 顧問
ほか関係諸先生

「東京理科大学薬学部第１期生同期会の開催」

平成24年４月３日に開催された第１期生同期会は、上野先生・榊原先生にご臨席頂き、総勢56名の盛大な会になりました。当初出席者は30～40名位を見込んでいましたが、60名近くになったので、KKRホテルと交渉して最大の宴会場（瑞宝の間）に変えてもらいました。

前日の２日の天気予報では、日本海に大型台風並の低気圧が発生して、３日午後から関東地方を強風と豪雨が襲来すると報道されたので開催を危ぶみましたが、強行することにした結果、案じたとおり当日に数名の方が欠席となりました。

同期会は今回が初めてという３名の方には、今までの経緯を含めて時間をかけて自己紹介をしてもらいました。

閉会時間近くに、強風と豪雨で帰宅困難な最悪の天候になってきたので終了時間を早めての解散になりました。出席された皆さんは、帰りの交通機関が混乱して大変だったようでした。

次回は２年後に「薬学部卒業50周年記念」として開催することになりました。　（黒崎　記）

「第２期生同期会」開催報告

平成23年10月15日、薬学部２期卒業生の同期会を開催しました。

当同期会は、今年で10回目となります。昨年までは、毘沙門天に対峙した森戸記念館で開催してきましたが、今年は日本橋室町の「ターバン」で開催し、32名の出席がありました。

我が同期会は、初夏の旅行も実施しています。また秋の同期会には、在学中に結成したハワイアンバンドの演奏が必ず付いています。

このバンドは、メンバーが退職後に再結成し、毎月練習に励んで同期会に演奏してくれていますので、一同楽しみにしております。

今年は、昭和40年代のヒット曲を中心に、演奏がありました。昭和40年３月に卒業した我々には全てが懐かしい曲で、古希に近い歳になりましたが、学生の頃や就職当時の思い出が蘇ってきました。

我々が入学した当時の校舎は、床から水道管のつなぎ目が出ている、未整備のままの教室が多く残っていましたので、その空き教室でバンド練習をして、注意されたこともありました。

若い先生方が多くて、活気に溢れていましたが、学生の方はのんびりしていましたから、実績の無い国試に向けて先生方は大変だったのではと思います。

同期生の14名は、すでに鬼籍に入っています。同期生139人の内、１割が欠けていますから、多い方ではないでしょうか。

最後に出席した一同はバンドの伴奏で「見上げてごらん夜の星」を合唱し、一本締めでお互いの健康と来年の再会を祈って、３時間の同期会を散会しました。

文責：２期生　谷　憲昭

薬学部12期同期会開催報告

平成23年７月23日、39名が参加し東京理科大学理窓会館（PORTA）第１会議室にて薬学部12期同期会を開催致しました。この日は神楽坂のお祭りと重なり、とても賑やかな夜でした。

薬学部が野田に移ってから初めての同期会開催でしたが、初めて同期会に参加された方達もいて、皆なつかしく何十年ぶりかで再会できた喜びにあふれていました。

春から薬学部長に就任した田沼先生は我らが同期です。

東日本大震災があり、祝賀会開催がためらわれてきましたが、同期会の中でささやかではありますが、お祝いできました。参加できなかった方達からも沢山のお祝いメッセージが届けられました。これからも田沼先生を応援し、母校の発展を見守りたいと思います。

第17期同期会報告

平成24年５月19日（土）17時30分～、神楽坂の日本出版クラブ会館において、第17期同期会を開催しました。出席者は51名でした。各クラスの会合は今まで幾度かありましたが、学年全体のものは初めてであり、32年ぶりの再開に、青春時代を思い起こすとともに、「いろいろあって～、いろいろと～」の言葉に人生の節目を感じました。二次会は、神楽坂PORTAの理窓会倶楽部で行い、これもほとんどの者が出席してくださいました。次回は、３年後に開催する予定で、幹事は、佐々木律男さん、寺村俊夫さんです。

（幹事代表：青山　隆夫）

薬品製造化学教室同窓会

東京理科大学薬学部の研究室が、現在は研究室制になり昔の講座制のように長きにわたる研究室が存在せずに同じ研究室で学んだという研究室の同窓会がなくなってきていますが、薬品製造化学研究室は山川浩司教授が理科大薬学部の初期より33期まで、長きにわたり続いた大所帯の研究室です。何度か同窓会は開催していたのですが、久しぶりに12期の梓沢一豊さんの声かけで、平成23年５月15日（日）に霞が関ビル35階、東海大学校友会館において開催されました。

当日は、３月11日の東日本大震災により開催が危ぶまれておりましたが、天気も良く暖かな初夏の好天気に恵まれ、無事に開催されました。しかし、震災の影響で、参加は当初の予定を下回りましたが、山川浩司先生、久留正雄先生、佐藤毅先生、西谷潔先生をはじめ、遠くから同窓生の参加もあり、約80名の同窓生が集まりました。残念ながら、参加出来ない方もおりましたが、その分、参加した卒業生は、山川先生とゆっくりお話する事が出来ました。

久しぶりに会う同窓生は、ほとんど昔と変わらないひと、昔の面影が全くなくなかなかわからない仲間も、時間と共に数10年前の記憶がよみがえり、懐かしさと共に、まるで昔の研究室で実験の後に、酒を飲み交わしているのではないかと錯覚してしまうような楽しいひと時を過ごしました。

今回の同窓会は、参加人数も多く集合写真を撮る時間も惜しまれる状態で、個別に記念写真を撮ってはいましたが、同窓会誌「ふなかわら」に載せる写真が無く写真を載せる事が出来ないのが残念です。

今回の開催に当り、幹事代表の梓沢さんと共に幹事の方々のご苦労に感謝いたしますと共に、厚く御礼申し上げます。

15期　日向　章太郎

旧植物化学研究室同窓会開催される

旧植物化学研究室（植化研）同窓会は、初代教授（故）村上　孝夫先生を引き継ぎました、二代目教授　田中　信壽先生（現在は退職されていますが）を会頭として、当時研究室助手の１期生の佐武　紀子先生（元神戸学院大学薬学部助教授、現日大・文理学部　非常勤講師）と15期生の和田　浩志先生（現東京理科大学薬学部講師）を中核として結成されています。

今回の植化研同窓会は、去る2012年４月１日（日）に

薬学部 植物化学研究室 同窓会（アラスカパレスサイド店　2012年４月１日）

竹橋のパレスサイドビル９Ｆ　アラスカにて第１期生から37期生までの総勢80名の参加者をもって開催されました。

38期生からは植化研自体がなくなったため、38期生以降の同窓生は存在せず、３年に一度の開催ごとに平均年齢が３歳ずつ上がっていくという、日本の高齢化社会そのものを反映した会ではありますが、遠方からも多くの同窓生に参集していただき、盛大なうちにとり行われました。

３時間にも及ぶ同窓会では、学生時代の話、主婦業や孫の話、ビジネスの情報交換から病気自慢まで、会話に華が咲きました。引続きなだれ込んだ神保町の如水会館での二次会でも大勢が残り、昔を懐かしみ、楽しい、素晴らしい一日を過ごすことができました。今後も３年間隔で開催を続けたいと考えておりますので、是非とも同期を誘って次回も参加いただきたいと幹事一同願っております

同窓会の様子は、以下のホームページで公開しておりますので、是非ご覧ください。

ホームページアドレス：
http://www.sehma.co.jp/shokubutsu/
お問合せ先：同窓会（幹事代表）15期生　谷口隆雄
ＴＥＬ：0776－24－5900
セーマ株式会社　代表取締役社長
メール：taniguchi@sehma.co.jp

鈴木潤三先生定年記念パーティー

平成24年３月４日（日）、神楽坂の出版クラブで鈴木潤三先生の定年を祝う会が行われました。

鈴木先生は、昭和46年３月、理学部の大学院を修了後、同年４月より薬学部の微生物学教室（鈴木静夫研究室）に勤務し、以来40年間東京理科大学薬学部の発展にご尽力頂き、本年３月の定年を迎えることとなりました。この間、衛生化学教室、情報薬学研究室に所属し、多くの研究業績をのこされました。また薬学部６年制への移行時には、東京理科大学薬学部独自のカリキュラム作成にご尽力されました。６年制薬学部の完成を見届けるような形で、大学を去られたこととなります。なお、６年制薬学部１期生は、卒業生全員が国家試験に合格することができ、合格率100%を達成することができました。これは、カリキュラムの内容が良かったことを示す結果であり、鈴木潤三先生のお陰であると思っております。

鈴木先生の定年を祝うこの会は、微生物学教室と衛生化学教室で鈴木潤三先生が直接指導された卒業生を中心に、約70名の方々が集まりました。この会を取りまとめ頂いた、服部幸子様（27期）の開会の挨拶に始まり、長野 明様（９期）の祝辞、さらにスライド上映を行いながら、鈴木先生が勤務していた40年間を振り返り、先生と卒業生また卒業生同士が旧交を温めることができました。最後に鈴木潤三先生から参加者の方々への挨拶でこの会をお開きとさせて頂きました。その後２次会、３次会が神楽坂で行われ、多くの卒業生が参加したと伺っております。

何はともあれ、鈴木潤三先生、40年間ご苦労様でした。先生の益々のご健勝をお祈り致します。

（文責：海保　房夫）

平成23年度同窓会通常総会および講演会について

平成23年７月30日（土）午後、東京・飯田橋にあるインテリジェントロビー・ルコにおいて、平成23年度通常総会が開催されました。総会担当は第16期が務め司会の遠藤健治氏の開会宣言、石井甲一会長の挨拶があり、次いで磯部総一郎氏（22期）が議長に、青山隆夫氏（17期）および伊集院一成氏（25期）が議事録署名人に指名され、事務局の冨塚朋子氏（16期）が議事録作成を担当し、議題に従って議事が進行されました。

主な議題は次の通りで、いずれの議題も原案の通り承認されました。

第一号議案　平成22年度事業報告

1．薬学部創立50周年記念行事
　記念式典　　平成22年５月16日
　　京王プラザホテル
　　コンコードボールルームにて
　記念誌販売
　寄付金　　100万円

2．同窓会会報「ふなかわら」第22号発行
　　平成22年６月

3．平成22年度実践社会薬学講座
　平成22年５月22日～７月10日
　（毎週土曜日７日間）

4．同窓会通常総会　　平成22年８月７日
　　理窓会館　第３会議室にて

5．地区交流会開催　　平成22年10月10日
　第43回日本薬剤師会学術大会（長野）で交流会開催

6．平成22年度薬学講座を共催
　　平成22年10月16日

7．新会員勧誘　郵送にて資料を送付
　　平成23年１月20日
　平成23年３月卒業者（48期）13名、大学院修了者 11名が会費納入

8．卒業生全員に卒業記念品を贈呈
　　平成23年３月19日
　東日本大震災により卒業記念謝恩会中止の為、祝金の贈呈はありませんでした。

9．同期会開催に際し、祝金３万円を贈呈
　　１期、７期、11期、15期

10. 2010年度版名簿作成、販売

11. 薬科大学・薬学部同窓会協議会への出席　見送り

12. ホームページのメンテナンス

13. 幹事会４回開催
　平成22年４月３日、８月７日、10月23日
　平成23年１月22日

14. 役員会の開催
　平成22年８月４日

第二号議案　平成22年度決算報告及び監査報告

平成22年度会計報告

東京理科大学薬学部同窓会

平成22年4月1日～平成23年3月31日

収入の部		支出の部		
内訳	金額	内訳	金額	摘要
同窓会費	1,666,000	人件費	794,500	アルバイト代(名簿関係分を含む)
名簿購入代	616,000	通信費	37,268	切手、クリックポスト
名簿関係金など	200,000	名簿作成印刷業者費	1,427,416	
預金利息	3,941	郵便代（宅配代を含む）	199,705	郵便代・宅配代
懇親会参加費	0	講演会謝金	0	講師謝礼
地区交流会懇親会参加費	115,000	印刷経費	2,800	印刷費
講演会参加費	0	懇親会費	0	総会懇親会
雑収益	29,005	実践社会薬学講座謝礼	60,000	図書券2000円×30名
繰越より繰入	2,690,723	実践社会薬学情報交換会費	90,000	
		卒業謝恩会補金	0	
		卒業記念品代	153,800	記念スーパーゼム200本
		交際費	36,571	総務・事務課お中元・お歳暮
		同期会補助費	120,000	1、7、11、15期
		地区交流会懇親会費	106,200	
		名誉薬科大学薬学同窓会協議会費	0	
		文具・事務経費	135,415	
		ホームページ維持費	36,000	
		名簿作成費	1,413,000	名簿作成、発送、2000年度分機関紙
		薬学部50周年祝金	1,000,000	
		雑費	72,000	振込手数料、名簿代など
合計	5,330,669	合計	5,330,669	

繰越内訳

郵便振替口座	671,000
定期預金	4,824,408
普通預金	5,890,200
普通預金（名簿用）	1,833,239
現金	335,907
計	17,340,304

平成23年7月15日

会計　　冨塚 智子

監査報告

会計報告の各事項を調査し、その収支ともに正確であることを認めます。

平成23年7月25日

会計監査　　高井 章吾

　　草本 紀子

第三号議案　平成23年度事業計画案

1．同窓会会報「ふなかわら」第23号発行
　　平成23年６月

2．平成23年度実践社会薬学講座
　平成23年４月16日～６月４日
　（毎週土曜日７日間）

3．同窓会通常総会
　平成23年７月30日
　インテリジェントロビー・ルコ
　特別講演会
　「鑑定を目的とした分析法の開発」
　　～理大薬出身者として～
　　講演者：科学警察研究所　法科学第三部
　　化学第一研究室　主任研究官
　　岩田　祐子　先生（28期）
　懇親会

4．平成23年度薬学講座を共催　　平成23年10月15日

5．地区交流会開催　中止
　日本薬剤師会学術大会（仙台）で交流会開催を予定しておりましたが、東日本大震災の為　中止と致しました。
6．新会員勧誘　郵送にて資料を送付
　平成24年１月
7．卒業記念謝恩会へ祝金を贈呈
　平成24年３月
　卒業生全員に卒業記念品を贈呈
8．同期会開催に際し、祝金３万円を贈呈
9．ホームページのメンテナンス
10. 薬科大学・薬学部同窓会協議会への協力
11. 2010年度版名簿販売
12. 幹事会の開催（平成23年４月９日、７月30日開催
　平成23年10月、平成24年１月を予定）
13. 役員会　（平成23年６月28日）

第四号議案　平成23年度予算案

平成23年度収支予算

東京理科大学薬学部同窓会

平成23年4月1日～平成24年3月31日

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	3,000,000	人件費	800,000
総会懇親会参加費	200,000	通信費（さくらインターネット）	20,000
地区交流会懇親会参加費	0	印刷発送費	1,100,000
名簿購入代	30,000	郵便代（宅配代も含む）	80,000
寄付金など	10,000	講演会謝金	50,000
預金利息	3,000	総会経費	90,000
		総会懇親会費	200,000
		実践社会薬学講師謝礼	50,000
		実践社会薬学情報交換会費	80,000
		卒業謝恩会祝金	100,000
		卒業記念品代	220,000
		交際費	35,000
		同期会協賛金（3 期分）	90,000
		地区交流会懇親会費	0
		全国薬科大学薬学部同窓会協議会費	50,000
		文具・事務経費	50,000
		ホームページ維持費	60,000
		予備費	50,000
		資産への繰入	118,000
合計	3,243,000	合計	3,243,000

以上の議案審議終了後、遠藤氏より閉会宣言がされました。続いて、第二部の特別講演では、本会28期の岩田祐子先生（科学警察研究所　法科学第三部　化学第一研究室　主任研究官）より、「鑑定を目的とした分析法の開発～理大薬出身者として～」という演題でご講演いただきました。内容は、岩田先生が携わってこられたキャピラリー電気泳動とタンデム質量分析を組み合わせた、覚醒剤のアンフェタミン類のキラル高感度分離分析法を確立するまでのお話を中心に、科学警察研究所の業務内容、覚醒剤、大麻、麻薬、向精神薬の分類、今話題（？）になっている脱法ドラック、警視庁と警察庁の違い等について、かなり専門的な内容から一般的なお話まで幅広くご講演いただきました。質疑応答では、分析に携わった経験のある方からはかなり専門的な質問や、警察物のテレビドラマの信憑性についての質問など広範囲に及ぶ多くの質問があり、盛り上がりました。中には、先生が公務員であるという立場からは回答に窮する質問もありました。普段聞くことの出来ない大変貴重な、そして興味深いお話を聞くことができたと思います。

氏名・住所・異動等変更届

東京理科大学薬学部同窓会宛　　記入　　年　月　日

下記の変更をお知らせします。

氏名	フリガナ		旧姓	フリガナ	
	漢字	姓　名		漢字	姓　名
卒業・修了	薬学部（薬学科・製薬学科）　期　年卒 （卒・研究室　）		大学院（修士・博士）　年修了 （院・研究室　）		
住所	旧住所	（〒　－　） 都道府県			
	現住所	（〒　－　） 都道府県 TEL.　FAX.			
	Eメールｱﾄﾞﾚｽ	@			
勤務先	フリガナ 名称				
	所在地	（〒　－　） 都道府県 TEL.　FAX.			
	Eメールｱﾄﾞﾚｽ	@			
その他連絡事項					

切り取り線

個人情報は　東京理科大学薬学部同窓会の規定に従い管理致します。

【事務所・連絡先】　東京理科大学薬学部同窓会　事務局

〒278-8510　千葉県野田市山崎2641　東京理科大学薬学部内
FAX：　04-7121-4531
E-mail：　jimu@ridaiyakudo.gr.jp

【ホームページ】　http://www.ridaiyakudo.gr.jp/

薬学部同窓会は同窓生の会費で運営されています

薬学部同窓会の皆様、日頃より同窓会にご協力戴きありがとうございます。

また本年も昨年に引き続き会費納入本当にありがとうございました。同会幹事一同心からお礼申し上げます。そして本年度から新たな同窓生となられました平成24年３月ご卒業、ご修了の皆様、ならびにご父兄の皆様からも本同窓会運営に賛同を得ることができましたことを本当にうれしく思っております。

東京理科大学薬学部同窓会は同窓生から徴収された会費により運営されております。

今後とも、ご支援、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

平成24年度会費納入のお願い

平成23年度に引き続き、平成24年度会費納入をお願いいたします。

各会員の会費納入状況は、ふなかわら送付時の宛名の下部に記載してありますのでご確認ください。なお、会費納入の際には、同封の郵便局振り替え用紙をご利用ください。会費は年会費2,000円（何年分でも納入できます）、終身会費50,000円です。ご寄付も受け付けておりますのでよろしくお願い申し上げます。

（終身・∞）

終身にわたり会費を納入済みの正会員の方：終身会員の方は、納入年度にかかわらず、ふなかわらにお名前を記載させていただきます。

（平成××年度・**済**）

平成××年度まで会費納入済みの正会員の方：会費納入年度のふなかわらにてお名前を記載させていただきます。

（平成24年度・**お願い**）

平成24年度会費　未納の会員の方：よろしくお願い致します。

2010年度版薬学部同窓会会員名簿のお知らせ

現在2010年度版薬学部同窓会会員名簿（CD-ROM 版）を発売しております。

名簿　終身会員・年会費納入者　頒価　3,000円

　　年会費未納者　　頒価　5,000円

購入ご希望の方は、会費納入と同様に同封の郵便局振り替え用紙をご利用ください。また、年会費未納の方で、年会費納入と名簿購入を同時に希望していただける場合は、名簿は3000円になります。よろしくお願い致します。

平成23年度　会費納入額詳細（平成24年３月31日現在）

	年会費納入		終身会費納入		寄　付　金		合計金額
	金　額	人　数	金　額	人　数	金　額	人　数	
平成23年度卒業･修了者	54,000	3	1,290,000	43	0	0	1,344,000
既　卒　者	168,000	36	975,000	20	10,000	1	1,153,000
合　計	222,000	39	2,265,000	63	10,000	1	2,497,000

薬学部同窓会会員数（平成24年度３月31日現在）

	会員登録数	終身会員	年会費会員
卒　業　生	8,709名	1,771名	927名
大学院修了生	208名	17名	6名
合　計	8,917名	1,788名	933名

平成24年５月12日
ホワイトコートセレモニー
（東京理科大学ロゴ入り白衣着用
病院実習、薬局実習へ）

東京理科大学薬学部同窓会へのお問合せ

【事務所・連絡先】

東京理科大学薬学部　同窓会事務局
〒278-8510　千葉県野田市山崎2641　東京理科大学薬学部内16号館１F
FAX：04-7121-4531
E-mail：jimu@ridaiyakudo.gr.jp

【ホームページ】

http://www.ridaiyakudo.gr.jp/
行事などに関するご案内など掲載しておりますので是非、アクセスしてみてください。

編集後記

昨年の３月11日の東日本大震災及びこれに伴う福島の原発事故から１年数ヶ月が過ぎました。津波の被災地の瓦礫処理はその焼却灰の放射能汚染の風評により、焼却地及び埋立て処分地の地元住民の反対により遅々として進んでおりませんでしたが、少しずつではありますが受け入れる自治体が増えてきています。これにより、被災地の復旧、復興が少しでも前に進めばと思います。一方、福島の原発事故を端に発した原発の再稼動の延期による電力不足は全国に波及し、今年の夏は全国的に更なる節電が求められ、特に原発の依存度が高い関西電力管内は、昨年夏の東京電力管内と同じく計画停電の実施も想定されています。電力は原子力や地球温暖化の原因のCO_2を排出する火力から再生可能エネルギーへと徐々に変更してゆくことでしょう。この変更のスピードを上げるには、技術革新で、より効率的な再生可能エネルギーの取得に負うところが多いですが、我々がまず取り組まなければならないことは、少ない電力で生活するライフスタイルを作ることではないでしょうか。まだまだ節電の余地はあると思います。

平成24年度 幹事一覧

小原　侃（１）
黒崎　浩己（１）
山口　堅志郎（１）
生田　安喜良（２）
鈴木　政雄（３）
中村　洋司（３）
池田　幸雄（４）
宇留野　強（４）
柏木　敬子（４）
山川　洋志（５）
山田　高照（５）
湯田　康勝（５）
植木　清一郎（６）
藤井　幸子（６）
石井　賢二（７）
寺山　博行（７）
松岡　隆（８）
奥村　成太（８）
武尾　勝司（９）
中島　敏夫（10）
原　しげ子（10）
石井　啓子（10）
安達　順一（11）
石井　甲一（11）
小暮　渉（11）
岡宮　智子（11）
冨秋　英志（11）
向井　呈一（11）
飯島　康典（12）
金澤　幸江（12）
犬飼　陽子（12）
田端　敬一（12）
伊藤　充朗（13）
小高　賢一（13）
濱野　朋子（13）
波田野佐和子（13）
伊藤　昭子（13）
石井　文由（14）
岩崎　修（14）
畑中　典子（14）
林　譲（14）
菅原　伸治（15）
日向　章太郎（15）
和田　浩志（15）
遠藤　健治（16）
関口　真紀子（16）
田畑　新（16）
武田　直子（16）
今　和枝（16）
渡部　敏行（16）
青山　隆夫（17）
渡辺　宏二（18）
小嶋　知夫（19）
小松　俊哉（20）
飯野　直子（21）
吉田　雅人（21）
安藤　秀一（22）
磯部　総一郎（22）
小川　政彦（22）
粕田　みどり（22）
永井　健二（22）
高井　幸恵（22）
和田　和裕（22）
上村　直樹（23）
伊集院　一成（25）
小林　寧（26）
関根　靖之（26）
若松　正克（26）
前田　真（27）
大瀧　充（29）
神谷　貞浩（29）
内村　兼一（30）
山本　香織（30）
水　八寿裕（30）
髙橋　未明（31）
小田　瑞穂（31）
佐々木　正大（32）
小島　昌徳（34）
野村　香織（34）
松井　洋子（34）
金井　亮介（37）
浅井　将（37）
遠藤　咲智子（39）
金枝　有香（40）
澤井　美里（40）
高橋　智至（40）
今関　友佳（43）
杉野　由香里（43）
永井　弓子（43）
森脇　恵子（43）
松本　洋典（43）
石坂　隆史（大学院）